

■これからの心理職のアイデンティティを、先達の臨床の智慧から学ぶ



ココロを 使うということ

藤山直樹（精神分析家）
笠井清登（東京大学精神医学教室）
編著

A5 版並製 416 頁 2020 年 10 月 19 日刊行
本体価格 3,500 円（本体）
ISBN 978-4-7533-1167-5

「私は心理職に求められるプロフェッショナルな素養とは何かをパートナー職である精神科医の立場から長年考えてきた。……すなわち、精神科医にとってもっとも頼りになるのは、力動的な視点と投映法を得意とする心理職である」（「はじめに」より）
東京大学「職域・地域架橋型－価値に基づく支援者育成」プログラム（TICPOC）医学部精神医学教室 C-1 コース 2019 年の連続講義から、力動的視点をもつ専門家、最前線で活躍する精神科医・心理臨床職の講義を採録。「values-informed care」、そして治療の「共同創造」の実際をケースから体感できるエッセンス。

それは生活臨床として……
心の棘に向き合う……
クライアントを「観察のデッキに」招いて……
「遊び」作用こそが大切な機能……
誰にでも役立つセルフケアを……
自分の価値を顕在化して……
当事者と治療を創造する……

◇特別対談◇ 藤山直樹×熊谷晋一郎 「当事者研究と精神分析が再び出会ったら」

当事者研究と精神分析の差異と類似性、
障害者運動の歴史、治療者の当事者性等、
こころの臨床家のみならず、私たちと社会
の間の“できごと”を生きる上で重要なことが
稀代の治療者たちから語られている。



【もくじ】

はじめに 笠井清登（東京大学医学部精神医学教室 教授）

第1講 精神分析という視点

藤山直樹（上智大学名誉教授、精神分析家）

第2講 力動的視点によるチーム支援の有効化

松木邦裕（京都大学名誉教授、精神分析家）

第3講 見えないところを可視化する

—治療的アセスメントによるケース理解—

中村紀子（中村心理療法研究室）

第4講 心理支援におけるコラージュ療法の理論と実践

中原睦美（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 教授）

第5講 ストレスケアとしての認知行動療法

伊藤絵美（洗足ストレスコーピング・サポートオフィス 所長）

第6講 臨床心理学における

教条・折衷主義から多元主義へ

村井俊哉（京都大学医学部精神医学教室 教授）

あとがき 濱田純子・太田和佐（臨床心理士・公認心理師）

岩崎学術出版社

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2 階

電話 03 - 5577 - 6817 Fax 03 - 5577 - 6837